慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	生産とDSS（生存可能企業のDSS構築の応用の試み）
Sub Title	
Author	江頭幹郎(Egashira, Mikio) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第396号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0396

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0396

学生氏名　江頭幹郎
（大同特殊鋼株式会社）
所属ゼミナール　関谷　章研

主査　関谷　章
副査　小野桂之介
古川公成

生産とDSS
（生存可能企業のDSS構築の応用の試み）

これから先、企業をとりまく環境が、激しく変化していくと言われ始めて久しい。

これら企業環境の変化を乗り切って、企業が存続していく為には、変化を素早く感じ取って、迅速に適応していかなければならない。企業のカジ取りをしている経営者の迅速かつ適切な意思決定のいかんによって、今後ますますその企業の存続が決定されると言えよう。しかしながら、経営者の適切かつタイムリーな意思決定のためには、適切な情報をタイムリーに提供しなければならない。

そこで、環境変化へ最も良く、最も自然に対応できるモデルとして人間の中枢神経に学んだビーアの生存可能モデルを診断用のツールとして、企業の組織構造ならびにシステムがどうあるべきかを、まずマクロ的に研究し、実在する企業に当てはめて診断を行ないつつ、ビーアの理論が実際に適用できるかどうかを試み、さらには企業内での具体的な意思決定を支援するためのシステムは、どうあるべきかについて、モートンのDSSの概念を研究し、実際にその応用を試みた。

その結果、ビーアの再帰性の概念、生存可能性、自律性の概念あるいは、モートンのDSSの概念は、少なくとも今回応用を試みたD社について、応用することの効果が大であることが明らかとなり、又、おそらく、巾広く他の企業への応用も可能であろうという結論を得ることができた。